

完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 北海道札幌市中央区北3条西7丁目
管理機関(代表の機関)名 北海道教育委員会
代表者名 教育長 倉本 博史

令和4年度マイスター・ハイスクール事業に係る完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和4年4月21日(契約締結日)～ 令和5年3月31日

2 管理機関

①管理機関(市区町村・都道府県)

ふりがな	あつけしちょう
管理機関名	厚岸町
代表者職名	町長
代表者職名	若狭 靖

②管理機関(産業界) ※2団体以上ある場合は、適宜、欄を追加して記入してください。

ふりがな	あつけしぎよぎょうきょうどうくみあい
管理機関名	厚岸漁業協同組合
代表者職名	代表理事組合長
代表者氏名	川崎 一好

③管理機関(学校設置者)

ふりがな	ほっかいどうきょういくいいんかい
管理機関名	北海道教育委員会
代表者職名	教育長
代表者職名	倉本 博史

3 指定校名

学校名 北海道厚岸翔洋高等学校
学校長名 福田 雅人

4 事業名

地域の未来を創るマリン・イノベーターの育成
～IT導入による持続可能な地域社会の創造～

5 事業概要

北海道は、日本海、太平洋、オホーツク海と特性の異なる3つの海に囲まれており、基幹産業の1つである水産業は、生産量・額ともに全国トップを誇っている。道東に位置する厚岸町は、豊かな自然に恵まれたカキやコンブの一大産地であるものの、人口減少等により、水産業の従事者数は減少傾向にある。こうしたことから、町内唯一の高校であり、水産科を有する厚岸翔洋高校が指定校となって、地域の産業界（漁協、道の駅）や自治体（厚岸町）と連携・協働し、IT技術を活用した「スマート水産業」に関わる機器の設置、取り扱い方法及び取得データの有効活用のほか、未利用資源の活用、新たな商品化に向けた取組を通して、将来、「スマート水産業」を牽引する拠点地域となるよう、三者が一体となって人材育成を図るとともに、地域創生につなげる事業とする。

6 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

7 意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
倉本博史	北海道教育委員会・教育長
若狭靖	厚岸町・町長
川崎一好	厚岸漁業協同組合・代表理事組合長
菅原裕之	北海道釧路総合振興局・局長
中村一明	厚岸町商工会・会長
荻原俊和	株式会社厚岸味覚ターミナル・副支配人
蛭谷幸司	釧路水産試験場・場長
福田雅人	北海道厚岸翔洋高等学校・校長

8 事業推進機関の体制（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
和田雅昭	公立はこだて未来大学・教授
安藤義秀	厚岸観光協会・事務局長
長谷川智人	北海道教育庁高校教育課・係長
守屋正人	北海道教育庁釧路教育局・主査
高橋政一	厚岸町水産農政課・課長
今村征士	厚岸漁業協同組合・総務部長（参事補）
岩崎純史	厚岸町商工会・事務局長
仲岡雅裕	北海道大学厚岸臨海実験所・所長（教授）
遠藤圭	釧路地区水産技術普及指導所・所長
福田雅人	北海道厚岸翔洋高等学校・校長
柴田耕一郎	北海道厚岸翔洋高等学校・教頭
鶴岡理	北海道厚岸翔洋高等学校・学科長

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営委員会		第1回					第2回				第3回	
事業推進委員会			○	○		○	○		○	○	○	
マイスター・ハイスクールだより発行			第1号						第2号			第3号
中間成果発表会								参加				

(2) 実績の説明

第1回と第3回マイスター・ハイスクール運営委員会は対面で、第2回はリモートで実施し、産業界や行政、研究機関など様々な立場の関係者が、本事業に対する意見や指導助言を述べるなど活発な協議が行われ、今年度の総括及び来年度に向けての期待の高さが伺えた。また、事業推進委員会は学校の各種取組に合わせて随時行うことができた。

管理機関として、マイスター・ハイスクールだよりを年3回発行し、全ての道立学校に本事業の取組を周知することができた。

11月には東京で行われた中間成果発表会に参加し、今年度採択された学校と情報交換するとともに、1年前に採択された学校の取組など大変参考になる事例を持ち帰ることができた。

10 事業の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地域の課題を発見			○			○						
資源管理手法の導入			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
安全・効率操業体制の確立				○	○	○	○	○	○			○
栽培漁業に関する研修				○		○	○		○		○	
教育課程の方向性の検討				○				○				○

(2) 実績の説明

マイスター・ハイスクール事業の開始にあたり、生徒に地域の課題を発見させた上で事業概要を説明した。7月からはセンサー設置による「スマート水産」の取組が開始され、海の

様子の見える化に取り組むことができた。また、安全・効率操業に関する取組や、アサリなど地元の養殖漁業に関する出前授業、水産食品の高付加価値化に関する研究などに取り組み、成果を上げることができた。

事業実施体制については、マイスター・ハイスクールCEOによる教員研修や授業、事業統括・管理を進めたほか、産業実務家教員による実習・実技指導、助言を得た。また、水産科教員を3つのグループに分け、それぞれのリーダーを中心に事業に取り組んだ。

事業の進捗管理については、実施計画を立て取組の成果をCEOや教員間で共有するとともに、課題について協議する機会を設けた。

一方、町長による講話は諸事情により実施することができなかった。また、キャリア・パスポートの活用を進めることはできなかった。

教育課程については、令和6年度から新たな学校設定科目「地域水産振興（仮）」を設置する方向で検討を進めている。今後、具体的な内容や各種調整を行う予定である。

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

○定量的目標に関する評価

項目	肯定的回答をした者の割合	目標	時期	1年	2年	3年	全体
1 地域(厚岸町、道東地域)に魅力を感じ、愛着を持っている	80%以上		6月	75%	60%	94%	77%
			1月	81%	60%	81%	74%
2 地域の課題を発見し、その解決に向けて多面的に考え、行動できる	80%以上		6月	25%	7%	56%	30%
			1月	31%	7%	50%	30%
3 将来、地域のために貢献したいと考え、行動できる	80%以上		6月	63%	27%	69%	53%
			1月	56%	20%	63%	47%
4 様々な産業人との交流をとおして、自身の進路について考えることができる	80%以上		6月	50%	67%	88%	68%
			1月	69%	60%	81%	70%
5 希望する進路に関連した資格取得に取り組んでいる	80%以上		6月	56%	60%	56%	57%
			1月	31%	47%	94%	57%
6 ITやICTの役割を理解し、活用することができる	80%以上		6月	75%	60%	94%	77%
			1月	56%	7%	56%	40%
7 卒業後、漁業や調理など地域の主要産業に就職した(就職したい)	66%以上		6月	75%	80%	56%	70%
			1月	63%	67%	81%	70%

定量的目標について、海洋資源科1年16名、2年15名、3年16名を対象にアンケートを実施し、〔4：大いにあてはまる、3：あてはまる、2：あまりあてはまらない、1：全くあてはまらない〕の4つの選択肢から回答。そのうち4及び3を肯定的評価として集計した。1月の3年生の数値を見てみると、項目1、4、5、7は目標を達成しているが、項目2の「地域の課題を発見して行動」する学習や、項目3の「地域のために貢献」する学習が不足していることが分かった。

項目6の「ITやICTの役割の理解と活用」については勉強を進めるにつれ、難しさが分かったため数値が下がったものと思われる。今年度の海洋資源科3年生16名のうち、13名が水産・調理関係への就職又は進学を決め、主要産業の進路先を選んだ割合は、6月時点からも上昇し81%と高く、全体でも70%となり目標を達成することができた。

○定性的目標に関する評価

項目	身に付いていると思う者の割合	時期	1年	2年	3年	全体
1 社会人・職業人としての基礎となる知識・技術		6月	50%	67%	56%	57%
		1月	50%	47%	75%	57%
2 コミュニケーション力		6月	63%	67%	81%	70%
		1月	69%	53%	75%	66%
3 協働する力		6月	88%	80%	88%	85%
		1月	88%	60%	81%	77%
4 自己管理能力		6月	94%	80%	75%	83%
		1月	75%	73%	81%	77%
5 思いやり		6月	94%	93%	88%	91%
		1月	94%	87%	94%	91%
6 思考力		6月	81%	87%	94%	87%
		1月	81%	93%	81%	85%
7 道徳心		6月	94%	73%	75%	81%
		1月	100%	93%	81%	91%
8 自己肯定感		6月	81%	80%	94%	85%
		1月	63%	53%	88%	68%

定性的目標に掲げた8つの項目は、本校があらゆる教育活動を通じて卒業までの3年間で「育成を目指す資質・能力」である。3年生1月の数値を見てみると、概ね8割前後の結果となっている。また、「社会人・職業人としての基礎となる知識・技術」「コミュニケーション力」「協働する力」「自己肯定感」の項目については、学年によって身に付いていると思う生徒の割合に大きな差がみられた。

1.2 次年度以降の課題及び改善点

今後、地域の現状や課題の理解、地域の将来について考える学習の充実が課題である。

本校のマイスター・ハイスクール事業の長期的な目標は、「漁業・食・観光など、地域産業の持続的な成長の創り手を継続的に育成」することであり、本事業終了時である令和6年度末の到達目標は「地域に即した『スマート水産』、『水産物の高付加価値化』の手法の開発」と、これらの知識・技術を体系的に習得するための学習・教授方法の開発並びに実施体制の確立である。

令和5年度は、管理機関やCEO、産業実務家教員と連携して地域の現状や課題の理解、地域の将来について考える学習を充実させるとともに、地域に即した漁業のスマート化に向けた研究・開発や、水産物高付加価値化に関わる知識・技術の習得と開発レシピ・加工品の商品化に関する取組を行うこととする。

